

正解

いまさら? と笑われそうだが、RADWIMPSの『正解(18FES ver.)』という曲に、ただならぬ衝撃を受けた。

ああ 答えがある問いばかりを
教わってきたよ そのせいだろうか
僕たちが知りたかったのは
いつも正解など大人も知らない

〔野田洋次郎作詞『正解(18FES ver.)』より〕

そのとおりだ。学校では「答えがある問い」で正解の出しかたを勉強する。正解を探す訓練を長く積み重ねる。そのせいだろうか、社会人になっても正解を探すような仕事のしかたをしてきた気がする。「どうしたら提案が採用されるか」「魅力的に伝える方法は何か」。そんな問いに正解はないはずなのに、正解とおぼしきノウハウを身につけることに必死だったのではない。ラジオ番組の制作をしていたときは「リスナーが正解をもっている。だから投稿メールをしっかりと読み込む」などとカッコつけていたが、実際には「ウケる企画は何か?」と正解を探して苦闘していた。

そんな自分が「正解がないことをあれこれ考えるのが楽しいんだよ」などと小学4

年生の娘に得意気に話しているのだから滑稽だ。子どもにではなく、自分自身に向けて言っているのかもしれない。「不惑」ということばは、あまり聞かなくなったが、五十も半ば過ぎなのに正解探しでいまだに惑っている。しかし……

正解など大人も知らない

のだから、まあいいかと勝手に慰められる。

正解ということばを辞書で調べると「①正しい答え②結果的に適切だったと思えること」が複数の辞書に共通する意味だ。と答え探しをしたとたんに……

答えがすでにある

問いなんかに用などはない

という歌詞が突き刺さってくる。

個人の人生に正解はないかもしれない。でも、人類全体で考えるとどうだろう。「平和」が正解のひとつであってほしいと強く願う。いまさら受けた衝撃だったが、2022年の8月だからこそ、この曲が心に響くのかもしれない。

高橋 徹(たかはし とおる)